



やす だしょう た
安田 翔太

生年月 1990年5月大阪府生まれ
最終学歴 京都工芸繊維大学大学院
建築設計学専攻 修了
業務経歴 2015年清水建設(株)入社
現在、関西支店建築設計
2部 主任
●担当した主なプロジェクト
2017年 宝町清水ビル
2019年 ANAインターコンチネンタル
別府リゾート&スパ
2020年 東京工芸大学6号館
2023年 日建技術環境分析センター
2023年-T学園体育館計画

■青年技術者のことば

社会に出て建築設計に携わり約10年、様々な用途と規模の計画に携わる中、設計者には2つの役割が求められていると感じました。

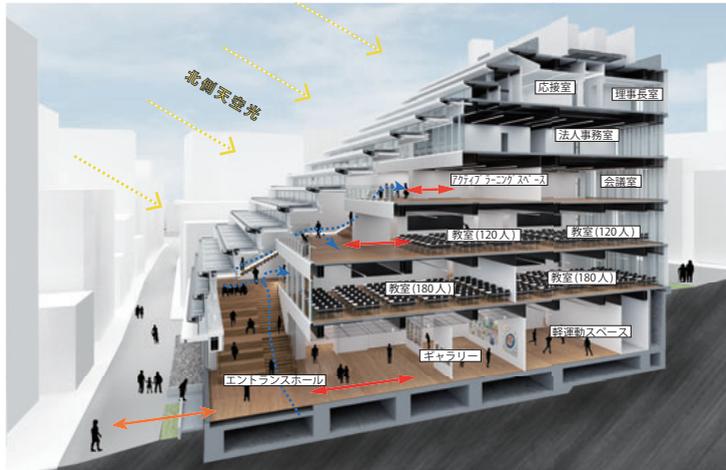
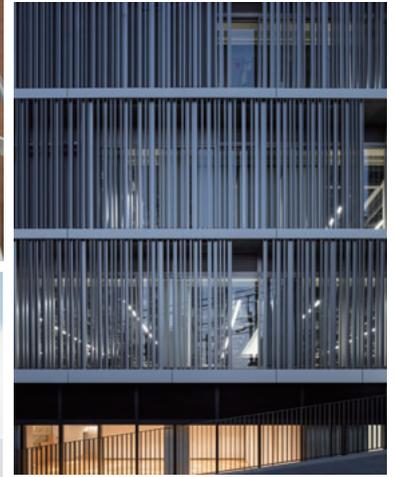
様々な与条件、特性、制約が複雑に関係しあう中、本質的な意義を見定め、あるべき姿を模索し、方向性を決定する、いわば舵取り役であると同時に、決定した方向性に対して、自らの感性や知見、技術力を以って建築・空間というカタチに落とし込む職人のような役割です。

先行きの見通しにくい不確実かつ複雑な現代社会において、設計者には“舵取り”と“職人”の双方の役割を柔軟に横断しながら、多くの人たちと協働し、粘り強く未知の世界を切り開いていく姿勢が要求されていると思います。

人々の生活や経済活動といった営みを支える基本的な存在である建築が、様々な諸条件を乗り越え、最もふさわしい佇まいと最適なカタチをもって社会に生まれ還元されることを目指して、これからも誠実に建築設計に向き合い研鑽を積み重ねていく所存です。

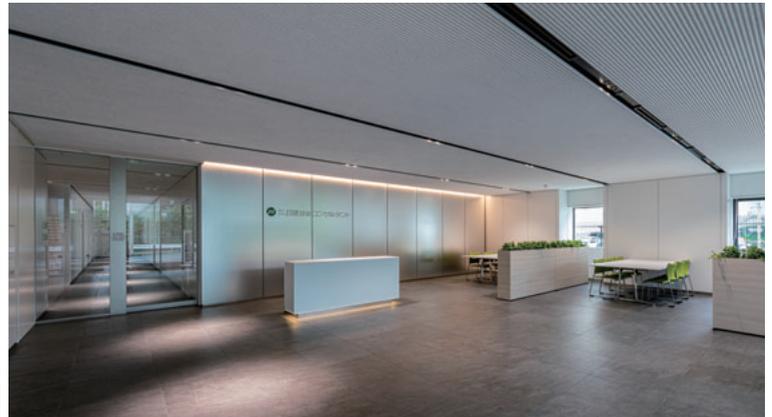
■すいせん者

小山裕之
清水建設(株) 関西支店
建築設計2部 部長



東京工芸大学6号館

芸術学部の新校舎計画。日影、斜線制限により生まれる建物形状を活かして、水平面を屋根、垂直面は開口を連続させた段々屋根に覆われた雑壇状の吹抜を設けた。吹抜内には作品を製作、展示、発表できるラウンジやステージ階段を設けると同時に上下動線を一体的に計画することで、学生が日常的に芸術作品に触れ、滞在・交流できる場を計画した。



日建技術環境分析センター

クリーンルームを備えた事務所ビル。指定された縦基調の外装意匠を洗練させるため、コーナー部にはテーパーを設けたアルミパネルでファサードを強調、低層部と開口部の外壁色を暗色とすることで縦基調を際立たせ、指定意匠のアップデートを試みた。